

第1次伊佐市総合振興計画後期基本計画（案）に関する御意見の概要と市の考え方について

1. 市の考え方を付した御意見の概要

【施策全般について】

御意見の概要	市の考え方
<p>・施策全般に関して、「達成度指標と目標値」の根拠がはっきりしないので説得力が弱い。「〇〇の増加を目指す」という目標は良いが、今後の人口推移を加味しているのか、加味していたとして、それが現実的な値なのか曖昧で、目標のための目標に見えるものが多い。</p>	<p>・目標値の設定は、前期基本計画期間での達成状況や過去の推移を勘案し設定しております。また、人口推移が関係する施策につきましては、過去の推移及び将来推計を加味して成果指標を設定しております。</p>
<p>・実績値と現状値の比較については、あまりにデータ数が少ないように見える。（資料作成上の制約なのか？）21年と26年、2年の比較ということはさすがにないだろうが、途中の推移が見えないと、一時的なデータの増減（気候の影響・景気の影響）なのか、長期的なものなのかがわからない。加えて「有意差」があるのか（82.7%が80.8%になったとして、それは「誤差の範囲」なのか「減少している」のか）をきちんと評価しているのか。増減目標は、比例のような推移だけではなく、要因によっては指数関数的な推移など様々なパターンがあるはずだが、考慮されているのか。</p>	<p>・成果指標の比較については、市で数値を把握可能なものは、年度ごとの比較を行っております。また、市民意識調査により数値を把握するものは、調査を実施した平成21年度と平成26年度の比較を行っております。なお、市民意識調査については、抽出方法や調査対象者数を同一としており、回答者の属性も前回と大きな差はありませんでした。目標値の設定については、前期基本計画との比較が必要であるため、このように設定しておりますが、次期計画の策定にあたり参考にさせていただきます。</p>

2. 今後、施策の目的達成のため、各事業を実施するにあたり、取り組みの参考とさせていただく御意見の概要

【施策No.1 「市民協働の体制づくり」について】

- ・自治会活動の煩雑さ、不明瞭さは他地域からの移住の妨げにもなっている。市で一定のガイドラインを揃えて、活動や手続きを整理する必要がある。それだけでも、市民も取り組みやすくなり、他地域勤務者のベッドタウンとして気軽な移住促進が可能。
- ・まちづくりなどに関するNPOやボランティアを市が支援するのはいいことだが、そこに多くの市民が参加しやすいような環境を整えてもらうとありがたい（情報開示、場の提供）。一般の市民からすると、なじみがなく、気持ちはあるがハードルが高い、というケースもある。
- ・NPOやボランティアにまちづくりを…というのもすばらしいが、きちんと報酬を出す形でもサポートしていくことができないか。公務員でも兼務申請できるし、会社員や自営業でも自治体からの依頼、税務上の申告などのサポートができるのでは。

【施策No.2 「人々が尊重しあう地域社会の実現」について】

- ・人権に関する学習会等に参加しない市民は、そもそも人権等の話題に興味を示して居なかったり、意識していなかったりという状況もあり、本人達が能動的にそのような学習会に参加することはまず考えられない。例えば何か市のイベントと抱き合わせで人権啓発活動へ参加できるようにするなど、仕掛けに工夫が必要。

【施策No.3 「行政情報の提供・共有の促進」について】

- ・ホームページ等を利用できるのは市民の内では少人数。特に、高齢者には難しい。高齢者をターゲットにした双方向の情報のやりとりを工夫する必要がある。（各商店などに行政の「目安箱」、新聞折り込みの簡易な市政かわら版のようなもの、など。）
- ・若者向けでは、ホームページだけではなく、facebook、twitter、LINE@等様々な媒体での情報発信が考えられる。SNSに詳しい専門の広報職員を置く。（もちろん、炎上等には細心の注意が必要であるが。）

【施策No.4 「時流にあった行財政運営」について】

・資産価値の減少している施設の処分を早急に検討した方が良い。運営しているだけ、設置しているだけで維持費用や税金が発生するのは無駄である。民間への売却、貸与等も含めて検討。

【施策No.5 「農林業の振興」について】

・集積化、後継者育成、ブランド化がうまくいけば、十分TPPにも対応できると考えます。後継者育成については、都会部の転職・退職、もしくは若者の農業体験希望者の受け入れなども。

【施策No.6 「商工業の振興」について】

- ・あえて、ターゲットを高齢者や観光客に絞るのはどうか。
- 商店街を歩行者天国化、道路の真ん中に飲食、休憩できるベンチやイス
- 巣鴨のように、高齢者ターゲットの商店街ゾーン
- 空き店舗などを低価格で賃貸、オープンな店を老若男女出しやすく
- 浅草の様な雰囲気でもいいかも
- ・「なにもない」のを生かすのであればインターネット上のビジネスの優遇誘致とか？

【施策No.8 「観光・交流の振興」について】

・交通アクセスが悪いため、トップクラスの売りである「焼酎」を飲むことが出来ず引き返す観光客が多いのは最大の難点。焼酎を飲んで、おいしい伊佐の食べ物を食べることができれば、リピーターになるのは確実。→宿泊施設の宿泊管理システムを一元化、インターネット等での予約もしやすく、各ホテルをバスで結ぶなどの工夫で、手軽にとまりやすく出来ないか。

・No.6に関連して、例えば曾木の滝を見た後にぶらぶら買い回り散策できる商店街があるのは強みになるのではないか。（その後飲んで食べて泊まることができれば、伊佐市で旅行の1日が完結できる。）

【施策No.11「暮らしやすい住環境づくり」について】

・古い市営住宅のような住宅は、ライフスタイルの変化から今後の移住者も積極的には入ってこない。建て替えるなど思い切った施策に出ないと、一時的な改修では結局空室等が増え資産価値が減少するだけ。公営の、高齢者向けのケアハウスのような施設に切り替えるのもあり？

【施策No.12「道路・公共交通体系の整備」について】

・太陽電池パネル・電気自動車等を利用した「スマートグリッド」「スマートシティ」の実証実験などに参加するというのはおもしろそうではある。

【施策No.17「自主的な健康づくり」について】

・高齢者が参加しやすい、健康増進のための機会や施設が充実すると良いかも。パチンコ屋のように簡単に足を運べる、高齢者向けゲームセンターのような。

【施策No.20「高齢者の自立と生活支援」、No.21「障がい者の社会参画と自立の推進」について】

・高齢者（障がい者含め）が暮らしやすい町はもちろん、介護従事者が暮らしやすい町にしていくことも必要か。介護従事者が増えれば他地域からのリタイアした前期高齢者も受け入れやすい町となるうえ、介護従事者の子ども世代の増加も見込める。

【施策No.24「学校教育の充実」について】

・支援が必要な児童生徒への対応。若い内から対応しなければいけない。家庭環境が複雑、経済事情が厳しい児童生徒も多く、保護者で対応し切れていないケースも多い。
・保護者も含めた教育機会。親子一緒に進路マネジメントなどを小学校レベルから取り入れ、学習の意義や将来の目標、ライフプランの計画等を一緒に考える。
・「伊佐市だから勉強できる」というものを。大学進学向けの公立塾、農業従事のための技能講習など。（もちろん、兼務で報酬が発生した方が講師もやる気が出るだろう。）

【施策No.25「青少年の健全育成」について】

- ・青少年が手軽に打ち込める、学校以外の何かがあった方が良い。ライブハウスでも、スポーツジムでも、安価で楽しめる娯楽がないと、結局喫煙や飲酒、暴走行為などに向かうしかない。
- ・学校以外のサロンになる場所もあった方が良い。スターバックスもどきのようなものでもいいし…そのような場所がないと、家やたまり場に集まるようになって問題行為がおきる。

【施策No.26「歴史・伝統文化の継承と活用」について】

- ・廃線跡などは、大変興味深い財産になり得る。現在残っている部分だけでも、整理して保護するだけで十分な観光資産にもなり得る。

【施策No.27「生涯学習や文化芸術の振興」について】

- ・若い文化芸術活動を行うアーティスト等移住促進を図っても良いのでは。住民と共同で作品作りをする人、等の条件をつけても、住みやすい条件があれば移住したい人が居るはず。

【施策No.28「スポーツの推進」について】

- ・「伊佐でしか出来ない」（本当はそうじゃなくても）スポーツがある、というアピールも、勤労世代には効く。ボルタリングやパラグライダーのようなアクティブなものも、できるのでは。情報さえちゃんと発信できれば好きな人は移住してくる。

3. その他、寄せられた御意見の概要

【施策No.2 「人々が尊重しあう地域社会の実現」について】

- ・ No.1 の自治活動が正常に機能すれば、近所同士でも正常な交流が生まれ、人権侵害等も減少する可能性もある。

【施策No.3 「行政情報の提供・共有の促進」について】

- ・ 公衆無線LANについては、観光客の誘致にも有効であろう。

【施策No.4 「時流にあった行財政運営」について】

- ・ 空き家屋や空き地、放置されている農地などは、工夫次第で財源にできないか…

【施策No.5 「農林業の振興」について】

- ・ よく練られていると感じます。

【施策No.6 「商工業の振興」について】

- ・ 商工業は（特に商）少子高齢化が進む中、厳しいのは仕方がない。
- ・ 地域振興券はどの程度の効果があったのか興味深い。
- ・ 土地はあり、宮崎・熊本へもアクセスは悪くない。水もきれいなので労働力問題さえなんとかなれば「シリコンバレー」になるポテンシャルはある。

【施策No.7 「新たな体制づくりとブランド化の推進」について】

- ・ ブランド化は少しずつ進んでいる。全国区になれば、インターネット等も活用してさらに販路を確保できるのだが。「イーサキング」はいい足がかりになりそうなので、フェードアウトする前になんとか…

【施策No.9「雇用対策の促進」について】

- ・No.4の建築物の補修や処分、No.5の後継者育成、No.6の商店誘致や出店支援など、伊佐市での働き口の余地は十分にある。

【施策No.10「豊かな自然環境と生活環境の保全」について】

- ・空き家・森林管理が課題。間伐材等のエネルギー源活用や、林業後継者育成も。

【施策No.12「道路・公共交通体系の整備」について】

- ・なかなか、検討されている以上のことは難しそうです。

【施策No.13「防災体制の充実」、No.14「交通安全の確保と犯罪のないまちづくり」について】

- ・高齢者の増加に注目するのはもっともなことだと思います。
- ・安全・安心な町というイメージが広がれば移住者も見込めます。

【施策No.15「廃棄物の減量とリサイクルの推進」について】

- ・ゴミは良好に処理されていると思います。某町の用に細分化しすぎるとかえって不法投棄等の原因にもなりそうです。

【施策No.18「医療体制の充実」、No.19「子どもを産み育てやすい環境の充実」について】

- ・子どもを育てやすい環境はあるが、その親世代の雇用先不足、子どもが学校へ進学していった際の学力の不安などがあるのではないか。

【施策No.22「地域福祉の体制づくり」について】

- ・No.1、2と関連。

【施策No.23「生活困窮者の自立支援」について】

- ・No.9など、公的な雇用を生み出して支援することも出来るかも？

【施策No.24「学校教育の充実」について】

- ・少人数学級、習熟度別学習など、なるべく個人に応じた教育が出来ないか。職員数その分必要にはなる。

【施策No.25「青少年の健全育成」について】

- ・地域の教育力にはあまり期待できない。No.1、2からも、そういう時代ではない、と考えて対策を立てた方が良い。

【施策No.26「歴史・伝統文化の継承と活用」について】

- ・文化財については市民も知らないなどPRが明らかに弱い。PRの弱さは鹿児島県全般に言えることなので、他県を参考にした方が良い。

【施策No.28「スポーツの推進」について】

- ・カヌーを軸に、宿泊施設、トレーニング環境の整備を行うのは第一。32年以降の継続した経済効果も考えて、初期投資する必要がある。

伊佐市人口ビジョン（案）に関する御意見の概要について

1. 今後、施策の目的達成のため、各事業を実施するにあたり、取り組みの参考とさせていただく御意見の概要

【33ページ】

・「その他」が多すぎる点が疑問。何も考えていない人が多いのなら、早急に対策が必要。「教育水準」の改善にもつながる。

【43ページ】

・「昼夜間人口」はあまり拘らなくてもいいのではないかと。南九州3県の中心ということもあり、ベッドタウンとしての機能も評価されている。いずれにせよ、人口が確保できれば小売用の雇用が増えることにもつながる。転出を食い止めて、せめて通勤・通学しやすいような環境にするというのも考え方。

【その他】

・①現状の「高齢者増加→介護従事者増加」「農業従事者不足→農業体験・転職希望者募集」「空き店舗増加→アーティスト・小売業誘致」をフックに、全国規模で転入者を受け入れる。ベッドタウン化もあり、転出者を食い止める。などが、人口減少を食い止める一歩。

・②出会いの場を作るのも良いが、「何かをする中で出会ってしまう」環境を作る方がいい。伊佐で婚活パーティーをしても伊佐に住まなければ意味がない。①のような、転入して同じような活動をする中で出会えば、自然に伊佐に住み着く。

伊佐市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に関する御意見の概要について

1. 今後、施策の目的達成のため、各事業を実施するにあたり、取り組みの参考とさせていただく御意見の概要

【基本目標Ⅰ「交流人口の増加から定住人口を増やす」について】

・アウトドア、いいと思います。キャンプ場も多いので、日帰り体験などもっとアピール出来るものから、宿泊につなげられれば。ポルタリングも現状流行っていますが、鹿児島では体験できる場所がまだ多くありません。霧島アートの森のような、アート施設も継続的に観光客交流を生みます。有名・無名アーティストに思う存分作品を作成・展示してもらえそうな環境があっても。

・湯之尾地区の温泉ルネッサンス計画①…現在の湯之尾温泉は菱刈鉦山からの配湯であり、厳密に言えば湯之尾温泉ではない。また泉質も良くないとはよく聞くところである。将来的に廃坑となった場合に、送湯管を地元だけで管理するのは、費用負担が大きくなることは想像に容易い。そこで、そうなることを早期に見越して、湯之尾地区に地元温泉旅館・伊佐市・菱刈鉦山による、独自の泉源を持つ第3セクター方式の配湯事業会社をつくり、将来の施設管理費用を軽減する措置をしておく。昨今、需要の高い家族風呂の整備で交流人口増加。

・湯之尾地区の温泉ルネッサンス計画②…日本全体で人口が減少する現代においては、定住人口政策は町同士の人々の奪い合いである。それならば、一定のターゲット層にしばってマーケティングするのもひとつの手である。『いつでも自分だけの露天風呂に入れる暮らし』を提案することで、そういう生活にあこがれるIターン組を誘致して定住人口の増加を図る。そのための一段の宅地整備と配湯施設の整備。

・間伐材を利用した薪は再生可能な資源であり、化石エネルギーに変わるエネルギーである。一定の講習を終えて、一定の不燃設備を持つ住宅に限り薪ストーブの設置に関わる費用の助成をする制度を作ることで、伊佐市内に薪ストーブのある住宅を普及し、ピザ窯だけでない薪の利用、間伐材の利用促進を図る。雇用の促進。同時に、田舎ならではの『火のある暮らし・伊佐市』をアピールすることで、定住促進も図る。また、暮らしの身近なところにこのような施設があることは、循環型社会の構築に向けての絶好の学習教材となることは間違いない。…的な？施策も欲しいところです。

- ・増加する空き家群を集团的、計画的にリノベーションすることで、新しい『マチ』をつくる。具体的には、旧菱刈駅前商店街エリアの空き家をリノベーションし、店舗、店舗兼住戸を整備し、そこに商売をしたい若い世代を誘致する。カフェ、デザイナーなどの若いクリエイターの拠点エリアとなるような仕組みづくり。ただし、拠点整備は補助金ではない。あくまでも民間資金を活用して事業として採算がとれるような仕組み。そのためのインキュベーターの育成と銀行と市の支援体制の構築。
- ・曾木の滝の観光との相乗効果。曾木大橋からのバンジージャンプの施設等の誘致はできないか。テレビ番組等で取り上げられることで、高い宣伝効果が得られるのではないか。また、保安林のあり方を見直し、滝を中心に紅葉系樹木を植林する。秋には曾木の滝、曾木大橋を中心に周辺一帯が一面赤く染まることで、紅葉観光のメッカとする。

【基本目標Ⅱ「教育環境の充実」について】

- ・ICT活用は慎重にやらないと失敗します。可能ならば、企業と提携してやるくらいでないと、現状の児童生徒に対して教職員は通常業務で手一杯です。高校に関しては、単位制含めスタイルを自由にした学校で個々に応じた指導もいいと思います。

【基本目標Ⅲ「6次産業化の推進」について】

- ・ブランド化はあと一步と思います。「伊佐にはこれがあるから足を運びたい」というレベルに持って行くには、自己満足の活動にならないことが大事。多くのヒットは根回し含めヒットまでに10年くらいは時間がかかっています。
- ・先日、南日本新聞でも取り上げられた南中跡で行われた、ねぎ焼き、カルソツ。栽培農家さんは規格外れのねぎを皮むきのパートの方に無償であげています。この流通にのらないねぎを使う伊佐版カルソツのようなイベントを毎年企画することで、栽培農家の収益アップと交流人口の増加、金山ねぎのブランド力向上を図る。ロメスコソースだけでなく、『更生之素』を使った新しいカルソツ用ソースを開発する。…ような施策も欲しいです。

【基本目標Ⅳ「健幸づくりスポーツの推進」について】

- ・軸はスポーツでいいと思います。高齢者が多いことを逆手にとって、シニア大会などを積極的に開催、周囲自治体からもバス等で練習・大会参加などできないか。トレーナー、競技関係者の雇用も。

【基本目標Ⅴ「安心して快適なまちづくり」について】

・就学前までの環境は整ってきているようなので、それ以降のサポートがしっかりすれば転出も防ぎ、少子化も抑えられる。就学後の教育水準の不安や、環境の不安（親も伊佐市の学校に通っていたから…）から結局転出してしまう、というのは悪循環。

【その他、事業計画について】

- ・魅力ある観光地づくり（体験型観光施設の導入）…周囲小売店とも調整して導入すれば効果があがりそう。
- ・大学生交流事業…意見交換は有効だが、就農・移住には結びつかない。農学部の学生で農業をしたいという学生はまずいないと思った方がよい。
- ・伊佐市独自の学校教育ビデオ作成…費用対効果がどの程度見込めるかが不安。直接学校に足を運んでいただいた方がまだ良いのでは。もしくは、市のPRビデオとしてYouTube配信を行うなど。
- ・新たなスポーツ施設…泊まり込みで体験できるような（大学生などの世代）施設だと賑わいそう。
- ・国有林・有休林野活用、体験型移住、アグリファーム、伊佐米オーナー…IJUターン、もしくは都会を離れて農業をしたい若者はたくさんいる。大都市部の若者、リタイア者に向けて幅広く募集、農地や機械をうまく譲渡・賃貸できる仕組みがあれば伊佐にはまさに最適。
- ・やぎプロジェクト…休耕地、堤防などの景観保護にも有効、動物好きも世の中には多いので、見所になるのでは。ジビエと併せて、伊佐グルメに取り入れてもいい。
- ・リタイアメント定住促進…「高齢者が増える→困る」という発想は捨てる。高齢者が増えて元気な町になればそれでOK。
- ・介護職の確保…介護職従事者へのサポートを充実させれば、お得に伊佐に住んで、伊佐の高齢者を介護して、結果結婚、育児等で経済にも貢献する。